

## フレックスタッチ®の使い方

本書では、トレシーバ®注フレックスタッチ®のイラストを起用していますが、ノボラピッド®注 フレックスタッチ®、ライゾデグ®配合注 フレックスタッチ®、フィアスプ®注 フレックスタッチ®も使い方は同じです。

監 修：新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室 教授 朝倉 俊成 先生

弊社製品に関するお問い合わせ (治療内容に関しましては、主治医にご相談ください)

### ノボケア相談室



月曜日から金曜日  
(祝日・会社休日を除く)

☎ 0120-180363



夜間及び  
土日・祝日・会社休日

(注) お問い合わせ内容によっては、翌営業日に  
回答させていただく場合がございます。

☎ 0120-359516

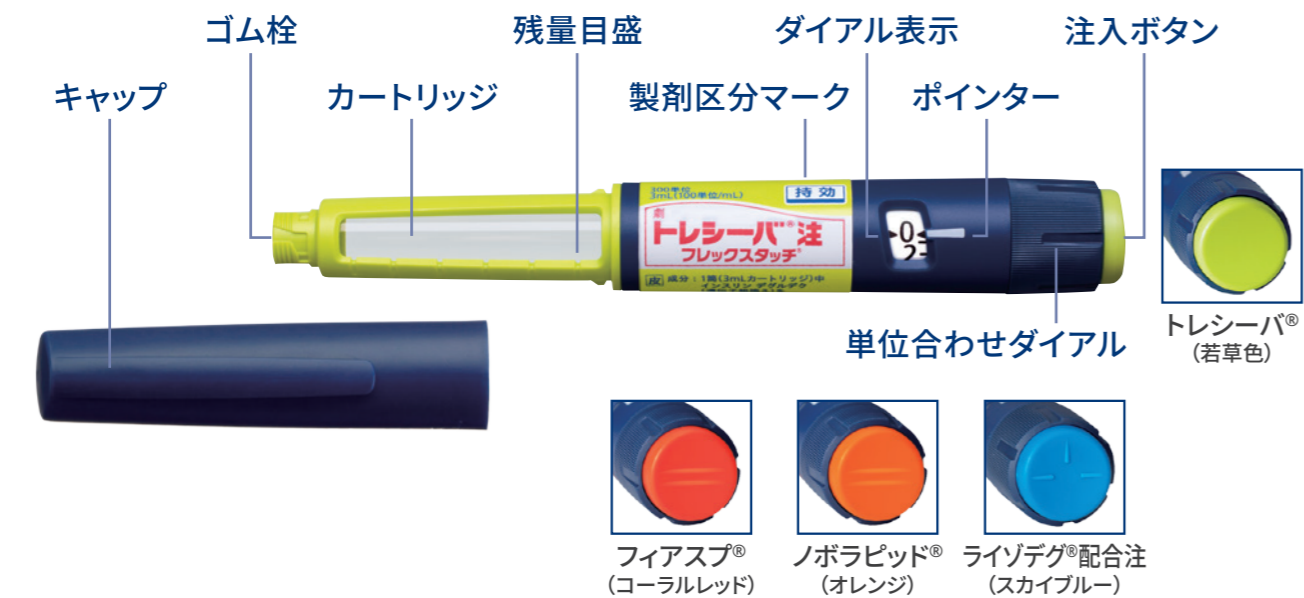


この冊子は、フレックスタッチ®の使用手順や注意点を説明したものです。  
注意事項やその他の必要事項の詳細については、製品に添付されている  
取扱説明書をご覧ください。また、自己注射は、主治医の指導のもとで行って  
ください。

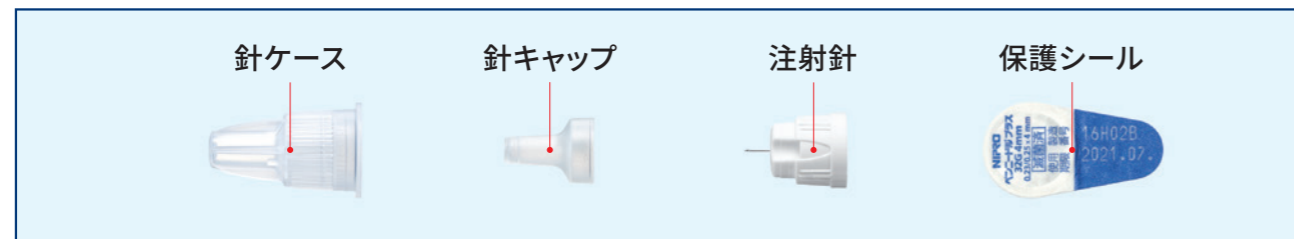
# フレックスタッチ®

## 各部の名称

本剤及び注射針の各部の名称は下図でご確認ください。



### A型専用注射針



※この資料では、ペンニードル®プラス 32G 4mmを例として用いています。

## 注射のときに用意するもの

- 主治医から処方された製剤のフレックスタッチ®
- 注射針
- アルコール綿

## 使用期限の確認

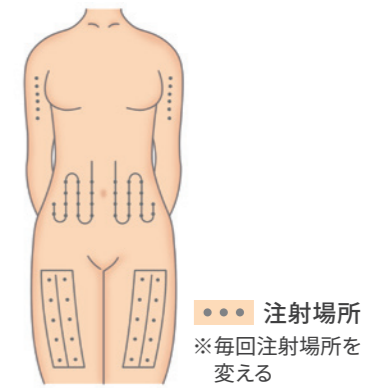
使用期限は個装箱、本体のラベルに記載されています。  
使用期限を過ぎた本剤は使用しないでください。

## 注意

- 落としたり衝撃を与えたりしないでください。故障や液漏れの原因となることがあります。
- 分解・改造しないでください。分解すると使用できなくなります。
- 薬液を詰め替えて繰り返し使わないでください。
- 本剤や注射針を紛失又は故障した場合等に備えて、それらの予備を必ずお持ちください。

## ● 注射部位について

注射部位は、おなか（腹壁）、上腕部の外側、太もも（大腿部）の外側が適しています。主治医の指示に従って、“おなか”なら“おなか”のように毎回同じ部位に注射しましょう。しかし、いつも同じ場所ばかりに注射をしてしまうと、その場所（皮膚）が硬くなってしまい、製剤の効き目が悪くなってしまいます。同じ部位の中で、前回注射した場所より少なくとも2~3cm（指2本以上）ずらして注射しましょう。もし、硬くなったり、“しこり”や“こぶ”のようになっている場合には、その場所への注射は避けてください。また、主治医に伝えましょう。

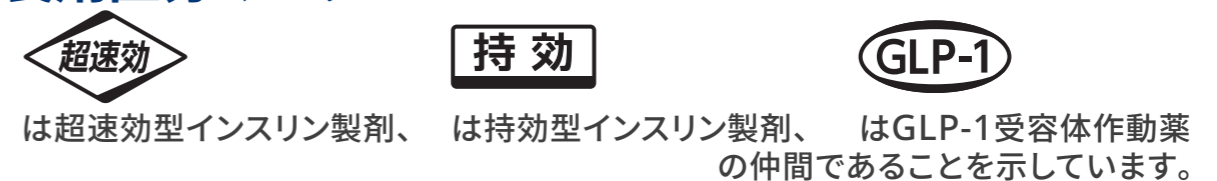


## 各製剤の注射時刻



- 本剤とA型専用注射針との装着部から液漏れ等の不具合が認められた場合には、医療従事者の指導に従い、新しい注射針に取り替える等の処置を行ってください。
- 本剤を目の不自由な方がご使用になる場合には、操作法の訓練を受けた方の手助けを受けてください。
- 本剤の使用にあたっては、必ず医療従事者から使用方法に関する説明を受けてください。
- 必ず主治医に指示された製剤であることを確認してください。間違った製剤を使用すると健康被害が生じるおそれがあります。
- 誤った操作に起因する事故及び故障につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

## 製剤区分マーク※ 種類・薬効による分類を示すマークです。



※製剤区分マークは、日本糖尿病協会 糖尿病医薬品・医療機器等適正化委員会にて検討・評価されて制定されました<sup>1~3)</sup>。  
1)くすりとう糖病 5 (1) 77-83 (2016) 2)くすりとう糖病 5 (2) 200-205 (2016) 3)DM Ensemble Vol.5 No.3 2016 November. pp34

**1** お薬の名前と製剤区分マークを確認します。

お薬の名前	製剤区分マーク
フィアスプ®	超速効
ノボラピッド®	
ライゾデグ®配合注	なし

●インスリン製剤の種類は色分けされています。

**2** ペンのキャップをはずします。

●カートリッジにひびが入っている場合、薬液が無色透明でない場合は使用しないでください。

**3** ゴム栓をアルコール綿で拭きます。

**4** 注射針の保護シールをはがします。

●毎回、注射ごとに新しい注射針をご使用ください。一度使用した注射針や、ほかの人が使用した注射針を絶対に使用しないでください。  
●注射針の保護シールが破損している場合は、使用せず新しい注射針に交換してください。

5 へ進む

**5** 注射針をゴム栓にまっすぐ奥まで刺し、止まるまで回します。

⚠ 注射針を斜めから刺さないでください。

まっすぐに取り付けることができない場合は...

①机の上ですべらせるように移動させる

②本などの折り目を利用して移動させる

**6** 「針ケース」をまっすぐ引っぱってはずします。

まっすぐ引っぱる

はずした針ケースは廃棄しない(後で使用します。)

針ケース

**7** 「針キャップ」をまっすぐ引っぱってはずします。

まっすぐ引っぱる

はずした針キャップは廃棄します

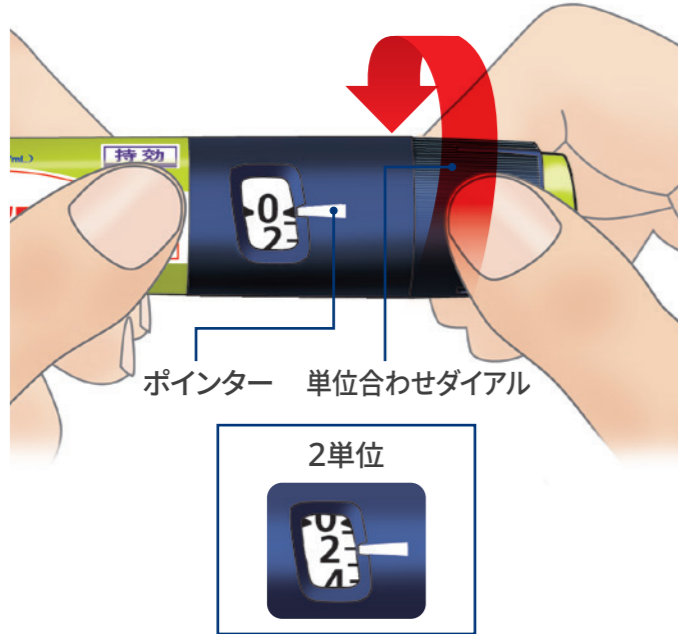
針キャップ

●針先から薬液が出ていることがありますが、故障ではありません。  
●注射針を曲げたり傷つけたりしないでください。

次ページ  
空打ち  
へ進む

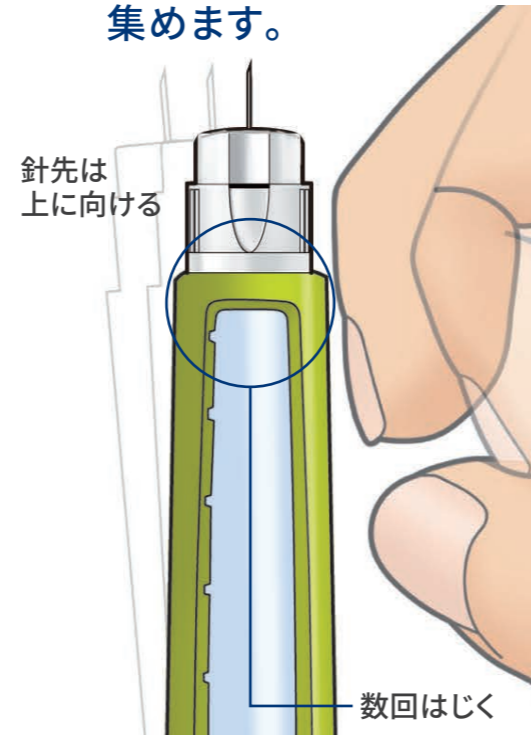
## 8 ダイヤル表示の数字を2単位に設定します。

ダイヤル表示が「0」であることを確認したうえで、単位合わせダイヤルを「2」単位に設定します。

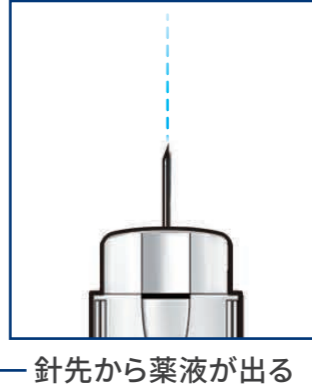
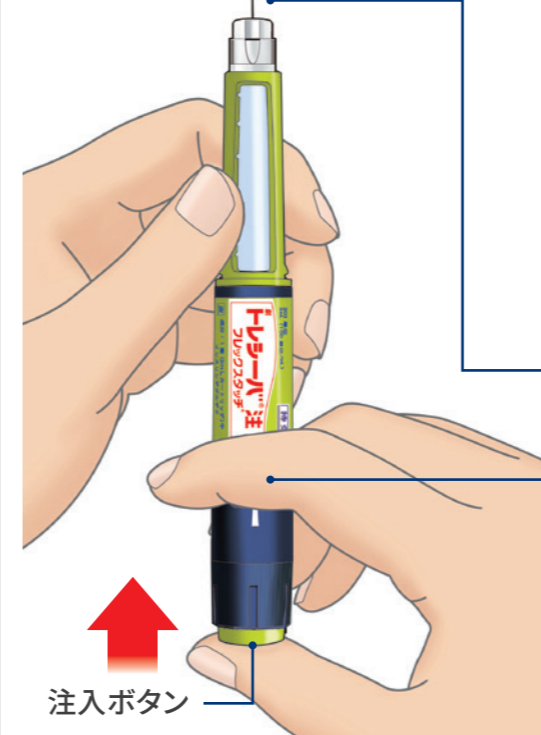


## 9 カートリッジ内の気泡を上部に集めます。

針先は上に向ける



## 10 針先を上に向けたまま、注入ボタンを押し込みます。



ダイヤル表示が「0」になったことを確認

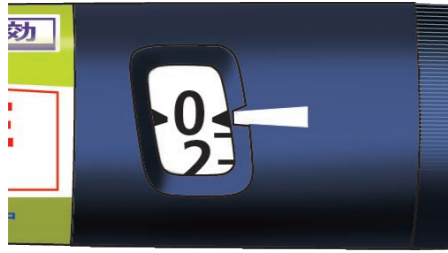
- 必ず薬液が出ることを確認してください。
- 6回実施しても薬液が出ない場合は、注射針を交換して、もう一度行ってください。それでも薬液が出ない場合は、そのペンを使用せず、別の新しいペンに交換してください。

# 単位の設定

本剤は1～80単位の投与量を1単位刻みで設定できます。

## 11 ダイヤル表示の確認

まずは、ダイヤル表示が「0」になっていることを確認します。



## 12 単位合わせダイヤルを回し、指示された量に合わせます。

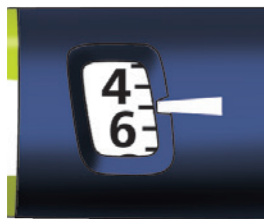
単位合わせダイヤルを回し、指示された量(1～80単位のいずれか)をポインターに合わせます。



次ページ  
注射  
進む

- 回し過ぎたときは、逆に回して正しい量に戻してください。
- 単位合わせダイヤルを戻すとき、注入ボタンを押さないでください。

- ・残量が必要な単位数より少ない場合、不足分の計算には十分ご注意ください。不安な場合は①に従い、新しいものをご使用ください。不足分を誤って計算した場合、注射した薬液が多すぎたり、少なすぎたりして、低血糖となったり、血糖値が高くなったりするおそれがあります。
- ・単位合わせダイヤルが止まったら、それ以上無理に回さないでください。故障の原因になります。
- ・単位合わせダイヤルを戻すとき、注入ボタンを押さないでください。針先から薬液が出てしまいます。
- ・カートリッジ部分にある残量目盛ではおよその量しかわかりません。必ず単位合わせダイヤルを回し、ダイヤル表示に示される数字で、投与する量を確認してください。また、残量を正確に確認するためには、単位合わせダイヤルを回して表示される数字を確認してください。



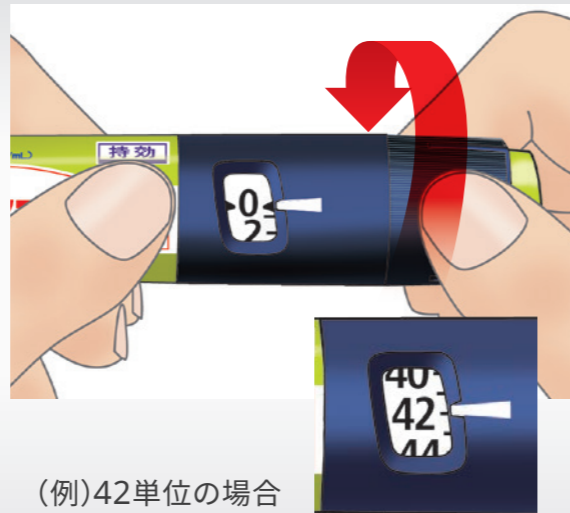
(例)5単位の場合



(例)24単位の場合

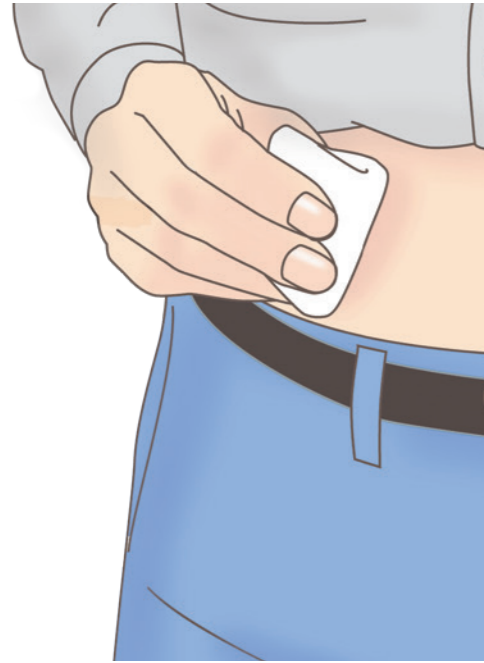
残量が必要な単位数の目盛より少ない場合は、次のいずれかで対処してください。

- ① 本剤を新しいペンに交換し、空打ちした後、主治医に指示された単位を注射する。
- ② 残量分を注射した後、新しいペンに交換し、空打ちした後、不足分を注射する。

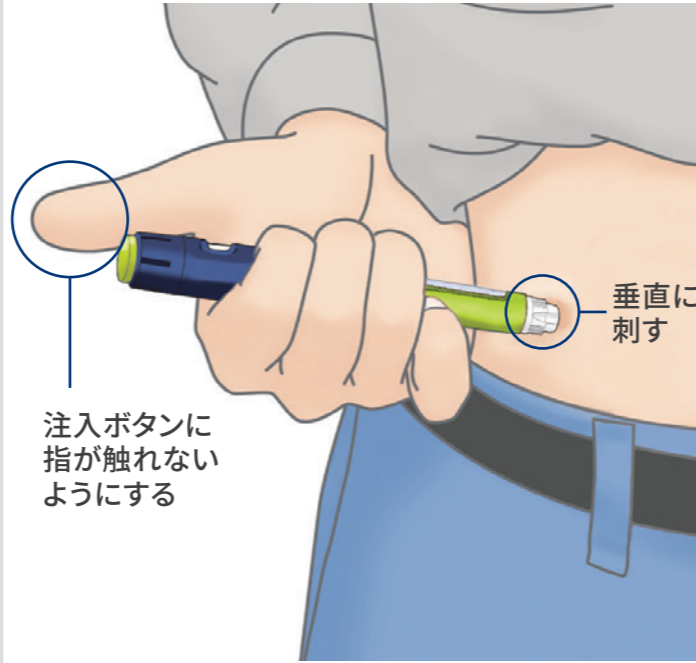


(例)42単位の場合

## 13 注射部位を消毒します。

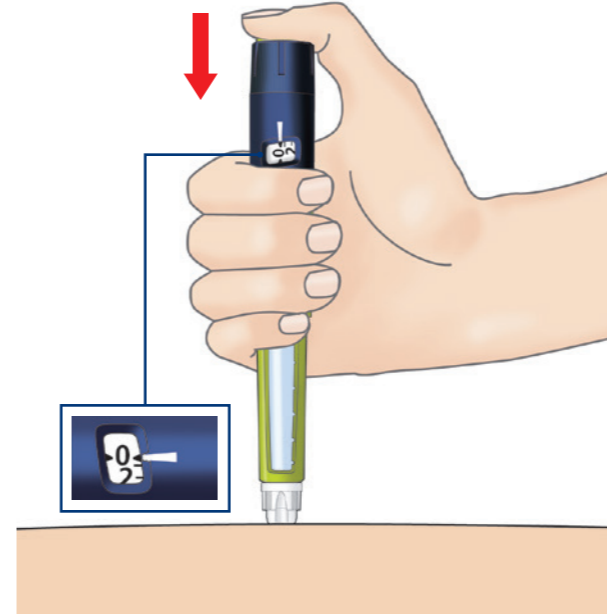


## 14 皮膚の面に対して、まっすぐに根元まで刺してください。



## 15 「カチッ」と音がするまで注入ボタンを真上から押してください。

「カチッ」という音がするまで、注入ボタンを真上から押してください。ダイアル表示が「0」に戻ります。



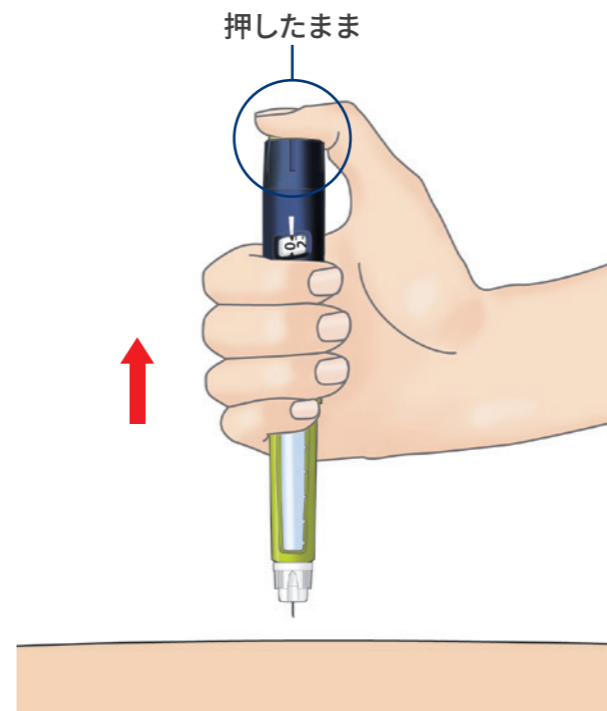
- 必ず注入ボタンを押してください。単位合わせダイアルを回すだけでは、薬液は注入できません。
- 注入ボタンを押すとダイアル表示が回るので、ダイアル表示に指が触れないようにしてください。
- ダイアル表示が「0」に戻ったことを必ず確認してください。注入ボタンを押し続けても、ダイアル表示が「0」に戻っていない場合 →「故障かなと思ったら」(P14) 参照

## 16 6秒以上注射針を刺したままにします。

完全に薬液を注入するため、注入ボタンを押した状態で、**6秒以上**注射針を刺したままにしてください。



## 17 注入ボタンを押したまま注射針を抜いてください。

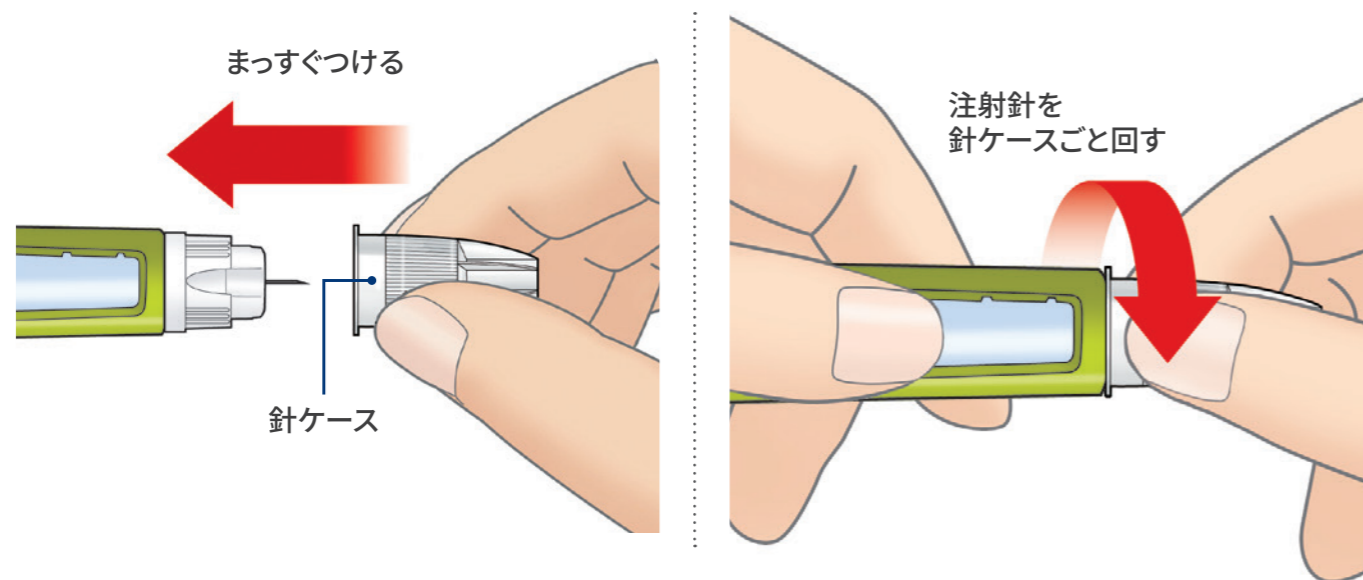


- 注射針を抜いた後、針先に滴がついていることがあります。注射した量に影響はありません。
- まれにカートリッジ内に血液が混入し、薬液に浮遊物がみられたり、変色したりすることがあります。その場合は、新しいペンをご使用ください。

16 へ進む

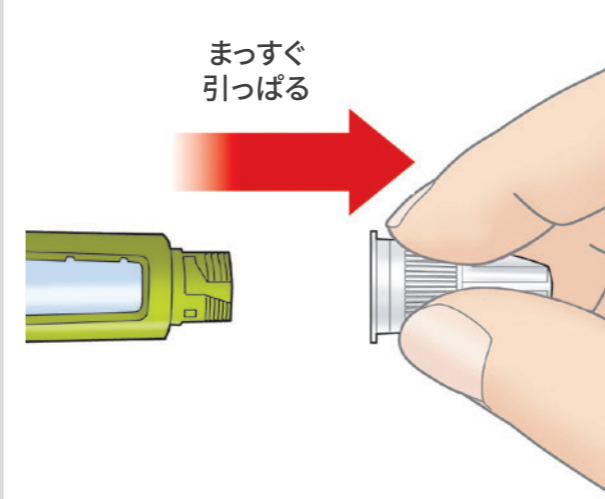
次ページ  
注射が  
終わったら  
へ進む

18 注射針に「針ケース」をまっすぐつけ、針ケースごと回します。



●針キャップはつけないでください。

19 まっすぐ引っばって注射針をはずします。



使用済みの注射針は、取り扱いに十分注意し、医療従事者の指示に従い危険のないように捨ててください。

20 ペンにキャップを付けます。



●注射針は毎回新しいものを、必ず注射直前に取りつけてください。

残量がなくなったペンは注射針をはずして廃棄してください。

## お手入れ

- ・汚れは、中性洗剤を含ませたやわらかい布で拭き取ってください。
- ・ほこりやゴミは、やわらかいブラシで払った後、やわらかい布で軽く拭いてください。



- 直接水で洗わないでください。万一、水などがかった場合は、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。
- 油をさしたりしないでください。

## 保管方法

- ・本剤や注射針などは、お子様などの手の届かないところに保管してください。
- ・次のような場所は避けてください。
  - ほこりやゴミが付着しやすい場所
  - 汚れやすい場所
  - 水のかかりやすい場所
  - 直射日光のあたる場所(窓辺など)
  - 極端に高温または低温になる場所(自動車内など)
- ・個装箱及び本体のラベルに表示してある使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
- ・キャップ等により遮光して保管してください。

### 未使用の場合

冷蔵庫(2~8℃)で保管してください。

#### ⚠️ 冷蔵庫(2~8℃)で保管する場合の注意

- 凍結させないようにしてください。フリーザーの中や冷蔵庫内の冷風が直接あたるような場所には置かないでください。
- 一度凍った本剤は使用しないでください。
- 冷蔵庫内に食べ物などとは区別して清潔に保管してください。

### 使用中の場合

フィアスプ®/ノボラピッド®/  
ライゾデグ®配合注/トレシーバ®

室温(30℃以下)で保管してください。  
冷蔵庫(2~8℃)での保管も可能です。

お薬の名前	使用開始後の期間
フィアスプ®	4週間以内
ノボラピッド®	4週間以内
ライゾデグ®配合注	4週間以内
トレシーバ®	8週間以内

現象	原因	対処
注射針がつけられない。	右の①、②の順で対処してください。	①注射針を交換してください。 ②注射針を交換してもつけられない場合は、フレックスタッチ®を交換してください。
・主治医から指示された単位に設定できない。 ・単位合わせダイヤルが回らない。	フレックスタッチ®ではインスリンカートリッジ内の残量以上の単位を設定できません。右の①、②のいずれかで対処してください。	①フレックスタッチ®を新しいものに交換し、空打ちをした後、主治医に指示された単位を注射してください。 ②残量分を注射した後、新しいフレックスタッチ®に交換し、空打ちした後、不足分を注射してください。
空打ちのとき、インスリンが出ない。	インスリンカートリッジの中に気泡が入っています。  後針が曲がり、ゴム栓に刺さっていない、または針穴が詰まっています。この場合は、空打ちを繰り返しても液は出てきません。	・気泡が抜け、インスリンが出るまで空打ちを続けてください。 (ごく小さな気泡は完全に打ち出すことはできませんが、これは故障ではありません。)  ・新しい注射針に交換し、再度空打ちを行ってください。
ダイヤル表示が「0」に戻っていない。(空打ちをし忘れた。)	その注射針で空打ちを行い、インスリンが出ることを確認してください。  空打ちでインスリンが出なかった場合 注射針が曲がっている、または針穴が詰まっています。  空打ちでインスリンが出た場合 何らかの理由で、注入ボタンを、ダイヤル表示が「0」になるまで押し切れていません。	・新しい注射針に交換し、空打ちでインスリンが出ることを確認した後、もう一度注射を行ってください。  ・設定した単位の一部のインスリンが注射されたおそれがあります。血糖値や自覚症状の変化にご注意いただくとともに主治医に相談してください。
空打ちのとき、インスリンが勢いよく出る。	フレックスタッチ®は、空打ちの際の勢いがよいことが特徴です。	・特に対処は必要ありません。 ・使用を重ねるとわずかではありますが、勢いが強くなる場合があります。(フレックスタッチ®の特性によるもので異常ではありません。)
注射の後、ダイヤル表示が「0」に戻っていない。(空打ちでは、液が出た。)	注入ボタンを、ダイヤル表示が「0」になるまで押し切れていません。	・注入ボタンを、ダイヤル表示が「0」になるまで押ししてください。 ・注射針を抜いた後に気づいた場合は、設定した単位の一部のインスリンが注射されてしまったおそれがあります。血糖値や自覚症状の変化にご注意をいただくとともに主治医に相談してください。
・注入ボタンを何度押してもダイヤル表示が動かない。 ・インスリンカートリッジのゴム栓が膨らんでいる。 	・注射針が正しく装着できていないときに、単位を設定して注入ボタンを押しました。 ・注射針をつけずに、単位を設定して注入ボタンを押しました。 ・注射のときに、ダイヤル表示が「0」になるまで押し切れていませんでした。	・注射の前に気づいた場合は、注射針を通常どおりに取りつけてください。針先から薬液が出てきます。その後、ダイヤル表示を「0」まで戻し、空打ちをしてから注射を行ってください。投与量に問題はありません。 ・注射針は「1 注射針の取り付け」の説明どおり正しく取り付けてください。 ・注射後に気づいた場合、設定したインスリンが注射できていないおそれがあります。血糖値や自覚症状の変化にご注意をいただくとともに主治医に相談してください。

※これらの対処を行っても問題が解決しない場合は、フレックスタッチ®を新しいものに交換し、空打ちを行ってから、注射してください。

チェック項目		/	/	/
注射液について	製剤の名前を知っていますか			
	自分の指示された単位数を知っていますか			
注射の準備	ゴム栓を消毒綿で消毒しましたか			
	注射針をフレックスタッチ®に正しく取り付けましたか			
空打ち	空打ちは毎回実施していますか			
	2単位に設定しましたか			
	3~4回はじいて、空気を上に集めましたか			
	針先を上に向けたまま注入ボタンを最後まで押しましたか			
	インスリンが出ることを確認しましたか			
単位設定	単位合わせダイヤルを回して注入単位数を正しく設定しましたか			
	単位合わせダイヤルを回しすぎたときの対処方法を知っていますか			
注射のしかた	注射部位を消毒しましたか			
	注入ボタンは最後まで押しましたか			
	ダイヤル表示で「0」に戻ったことを確認しましたか			
	注入ボタンを押したまま、6秒以上おいてから針を抜きましたか			
注射が終わったら	注射後、注射針は直ちに取りはずしましたか			
	注射針は正しくはずしましたか			
	使用済みの注射針は主治医の指示に従って、正しく捨てていますか			
その他	注射針は毎回新しいものを、注射直前に取りつけていますか			
	使用中のフレックスタッチ®は室温(30°C以下)または冷蔵庫(2~8°C)で保管していますか			
	未使用のフレックスタッチ®は冷蔵庫に入れてありますか			
	インスリンは凍らせてはいけないことを知っていますか			